

## 君も北海道でハンティングをエンジョイしないか！

名前：高橋 守

出身地：北海道

勤務先：八雲食肉衛生検査所

まだ気づかれていない…

静か～にレンジファインダーで距離を測る…

40mますますの距離だ…周りに人がいないのを確認する…

銃に弾を装填…

頭を丸めこっちを向いているマガモの胸元中心にスコープの標準を合わせる…

風はない…

対岸へ撃ち下ろしなので1cm着弾が上がるのを補正…

左目で水平器を見て銃を水平に…ゆっくりとトリガーを引く…

パシュー（圧縮空気です）…

これが現代のエアーライフル（空気銃）の精密射撃です。

私がハンターになったのは、シカ肉の有効活用という仕事が切っ掛けでした。北海道では野生のエゾシカが増え、農業や森林被害が深刻です。

道ではエゾシカの個体数を減らすとともに、捕殺したシカ肉の利用推進を検討していました。私は食肉の安全確保が担当です。そこで、ハンターに同行してシカを撃つところから食肉処理場に搬入するまでのリスクを調査することにしました。

昼休み、ハンターが銃を点検していたのでスコープを覗かせてもらった瞬間…撃つみたいな…と思ったのがハンターへの道の始まりでした。

今のところエアーライフルでカモ撃ちを専門にしています。命をいただくことなので、美味しく食べなくてはなりません。手早くカモの毛をむしって内臓を取り出し、肉の温度を下げます。我が家では愛犬パールが大好きで、この時期が来るのを楽しみにしています。

道職員は転勤があります。オホーツク勤務になったとき、猟場でよく白鳥に出くわしました。スコープで覗くとなんと的が大きいことか…でも狩猟鳥ではないので撃てません。畑から何百羽というマガンが一斉に舞い上がったこともありました。それは壮大な光景です。また、タンチヨウの親子にもよく会いましたね、オホーツク勤務でなければ経験のできないことです。転勤で勤務先が変われば、また、新しい出会いが待っています。

現在は、道南の八雲町にある食肉衛生検査所に勤務しています。ここは海ガモとの勝負！波間で上下するカモを見ていると酔いそうになりますが、頭が上がってくるタイミングでヘッドショットを狙います。

八雲町を流れる遊楽部川にはたくさんの鮭が遡上し、冬にはオジロワシやオオワシが死骸を食べにやって来て、その勇ましい姿を見せてくれます。

道職員は土日祝日は特別な事情が無い限りお休みできます。あなたもガバメントハンターになって、雄大な自然の中でハンティングを楽しみませんか。(steyr LG110HP 4.5mm)

